

ご挨拶

盛夏の候、皆様におかれましては益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。

江津市では5月中旬以降から風疹抗体検査並びに予防接種対象者(39歳から56歳)として、「クーポン券」が送付されております(2年かけて行われます)

この背景として2018年7月以降、特に関東地方において風疹の患者数が増加しており、それらの患者の中心は風疹に係る公的な予防接種を受ける機会がなかった30代から50代の男性でした。

妊婦、特に妊娠初期の女性が風疹に感染すると、難聴や心疾患、白内障などの障害(先天性風疹症候群)のある赤ちゃんが生まれる可能性があることが知られており、妊娠を希望されている女性やその配偶者、同居者などで、風疹の抗体価が低い場合は、予防接種を受ける必要があります。

原則として**特定健康診査の機会や、事業所において定期に実施する健康診断の機会を活用して、受検していただく**ようお願いいたします。抗体検査および予防接種は当院でも可能ですので、ご不明な点がございましたら、お電話でお問い合わせください。

さらに6月1日より令和元年度特定健康診査が開始となっております。こちらに関してもお気軽にお問い合わせください。

2019年7月 花田昌也



臨時休診のお知らせ

下記の日程は院長不在のため、臨時休診とさせていただきます。ご迷惑をおかけしますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

7月13日(土) 臨時休診

9月14日(土) 臨時休診

お盆休みのお知らせ

8月13日(火)から8月15日までお盆休みのため、外来診療を休診とさせていただきます。

8月10日(土)	8月11日(日)	8月12日(祝)	8月13日(火)
通常診療	休診	休診	休診
8月14日(水)	8月15日(木)	8月16日(金)	8月17日(土)
休診	休診	通常診療	通常診療

火・木・土の透析が開始となりました。

開院後、月・水・金 午前・午後2クールでの透析を行っていましたが、患者数が増加したため、2019年7月より火・木・土 午前クールでの透析を開始いたしました。お仕事など患者様のライフスタイルに合わせて透析曜日を選択でき、また急な透析曜日変更に対応が可能となるなど患者様にとって多くのメリットが得られるだけでなく、送迎ルートの拡大も可能となるなど我々にとってもメリットがあります。引き続き質の高い透析医療を提供できるよう、スタッフ一同真摯に取り組んでまいります。

検尿のおはなし

- ▶ 学校健診や特定健診などでは必ずと言っていいほど検尿検査が必須項目として行われますが、では検尿は何のために行われているかご存じでしょうか？

尿は腎臓で作られて、尿管、膀胱、尿道を通過して出てきます。この通り道のどこかに問題(糸球体腎炎、結石、膀胱炎、泌尿器癌など)があると、尿に異常がみられます。とくに**腎臓病は無症状のことがほとんどなので、尿検査は非常に重要な情報を与えてくれます。**

健診で行われる尿検査では、尿蛋白、尿潜血、尿糖がわかります。それぞれ蛋白質、赤血球、糖分を検出しますが、これらは体に必要なものですので、通常尿に出てくることはありません。

なんらかの問題があったときに尿から検出されることとなります。



- ▶ **尿潜血(尿蛋白は陰性)が陽性と言われたら...**

尿に赤血球が混入した場合に陽性になります。腎臓だけでなく、尿管、膀胱、尿道(下部尿路)からの出血が考えられます。持続的に尿潜血が陽性の場合には、尿の成分を詳しく顕微鏡で見る「尿沈渣」という検査を行い、実際に赤血球(RBC)がどのくらい出ているか、赤血球の形が変形していないかなど診る必要があります。慢性糸球体腎炎などでは赤血球が変形して、金平糖やミッキーマウスのような形になります。一方で尿路結石や膀胱炎、がんなどでは正常の赤血球と同じ形をしているため、泌尿器科での精査が必要となる場合があります。

- ▶ **尿蛋白(尿潜血は陰性)が陽性と言われたら...**

一過性の蛋白尿(生理的蛋白尿)の可能性がありますが、まず再検査します。尿の濃さによっても検出する感度は違ってきますので、次にどのくらいの量の蛋白が出ているのかを調べます(定量検査)。尿蛋白は、腎臓、特に糸球体から漏れてきます。ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、腎硬化症、糖尿病性腎症などさまざまな腎臓病が疑われます。検尿で±もしくは+となった人の5~10%が将来腎不全に進行したとの報告もあります。尿蛋白は腎臓からのSOSのサインかもしれませぬ。



- ▶ **尿蛋白・尿潜血がともに陽性と言われたら...**

尿蛋白、尿潜血がともに陽性の場合には、糸球体に炎症が起こり、蛋白や赤血球が糸球体から漏れ出ている可能性があります(糸球体腎炎)。尿蛋白の量などにもよりますが、早急に腎生検を行うことが奨められます。

- ▶ 検尿を行うことによって、腎疾患の早期発見・治療が可能となり、かつては透析の一番の原因であった糸球体腎炎は減少してきました。尿蛋白など指摘された場合にはお気軽にご相談ください。

